

# うつとり・ レース

一本の糸からつくる美空間

平成27年度  
東京家政学院生活文化博物館

移管資料展(2)

□会期  
**プレ展示**  
(本展示資料の一部を列品)  
2015年10月15日(木)▶  
10月29日(木)  
**本展示**  
2015年11月9日(月)▶  
2016年2月5日(金)

□ギャラリートーク  
2015年11月14日(土)  
13:30  
場所:  
東京家政学院  
生活文化博物館  
展示室

□開館時間/  
9:30~16:30  
□休館日/  
土・日曜日・祝日  
12/26-1/6, 2/1-3  
※但し、11/14(土)・15(日)は大学祭のため開館

□主催/  
東京家政学院  
生活文化博物館

**プレ展示** 東京家政学院大学千代田三番町キャンパス1号館 ロビー

□ 〒102-8341 東京都千代田区三番町22番地 TEL:03(3262)2251(大学代表)

**会場** 本展示 東京家政学院 生活文化博物館

〒194-0292東京都町田市相原町2600 東京家政学院大学1号棟1階

TEL:042-782-9811(大学代表)/042-782-9814(直通) URL:www.kasei-gakuin.ac.jp/



## ごあいさつ

生活文化博物館では昨年に続き移管資料展の第2弾として「うっとり…レース 一本の糸からつくる美空間」展を開催するはこびとなりました。移管資料展は、かつて本学短期大学が所蔵していた衣文化関連の実物資料を生活文化博物館の資料として登録しなおし、あらためて一般公開を目的として企画された展覧会です。

昨年は旧被服構成学（立体）研究室が所蔵していたオートクチュール17点が公開されました。P.カルダン、E.ウンガロの作品はこれまで授業や卒業研究など関係者だけが見ることができる学内資料でしたが、特別展としてはじめて公開されたものです。

今年は移管資料展（2）として約200点のレースを展示いたします。16世紀以来、ベルギー、イタリア、フランスなどヨーロッパを中心に発達してきたレースには、地域や国によって特徴的な技法が発達したためその技法に地域名をつけたものが多く見られます。また幾何学模様、花鳥模様、人物や動物模様さらに器物などの模様が繊細な糸から形作られており、その優美でち密な表現を目当たりにすると、「うっとり」してしまいます。

本展示のサブタイトルは「一本の糸からつくる美空間」ですが、複数の糸を織り込んでいくボビンレースのような技法もありますので、正確には一本の糸だけで作るわけではありません。しかし、感覚的には女性が一本の細い糸を根気よく器用につくり上げていく手わざの世界があるように思います。レースがかつては「糸の宝石」とも呼ばれた理由がここにあるのではないかでしょうか。

こうした手間と時間を惜しむことなくつくられたレースも、19世紀になると機械による製造が可能になり、その結果産業としてはほぼ姿を消してしまいました。現在ではほとんど博物館でしか見られなくなっているのはとても残念な思いがいたします。

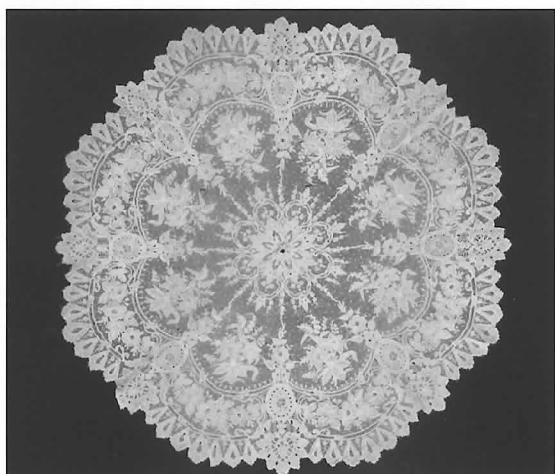
今回展示したレースは、胸襟飾り、エプロン、ショール、袖口、ハンカチーフなどさまざまな部位に使われたものであり、そこで見られるレースのもつ繊細でエレガントな「美空間」をご堪能ください。

2015年10月15日

東京家政学院 生活文化博物館館長 小瀬 康行



●黒絹糸鼈甲骨扇子  
19世紀、フランス  
ボビンレース



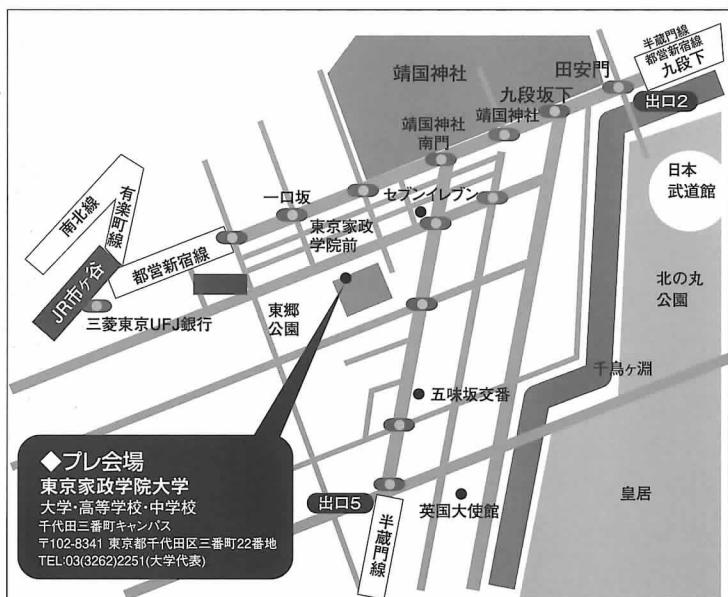
●日傘  
19世紀後半、ベルギー  
ニードルポイントレース



●テープ  
18世紀  
ボビンレース



●レース習作  
1980年代、日本  
フィレレース



東京家政学院大学  
千代田三番町キャンパス

\*JR中央線・総武線、東京メトロ有楽町線、東京メトロ南北線、都営地下鉄新宿線「市ヶ谷駅」から徒歩約8分(地下鉄A3出口)

\*東京メトロ半蔵門線「半蔵門駅」から徒歩約8分(5番出口)

\*東京メトロ東西線、都営地下鉄新宿線「九段下駅」から徒歩約12分(2番出口)



東京家政学院 生活文化博物館

\*JR横浜線「相原」駅下車、「東京家政学院」行バス約9分、

または「法政大学」行、「大戸」行バスで、「相原十字路」バス停下車徒歩約10分

\*京王高尾線「めじろ台」駅下車、「東京家政学院」行バス約13分

\*JR中央線「八王子」駅下車、八王子駅南口(バス乗り場7番)から

「東京家政学院」行バス約28分